

展望'96年

設立五十周年迎え新たな一歩踏み出す年

神社本庁

神社神道

神社本庁（東京都渋谷区代々木一ノ宮二・総長＝岡本健治・熱田神宮宮司）とその包括する全国八万神社が本宗と崇める伊勢の神宮（久邇邦昭大宮司）は、今年、内宮（皇大神宮）ご鎮座二千年という佳節を迎えた。

今年一年間は二千年の奉祝の年として参宮運動が全国に呼びかけられており、特に九、十月の二カ月間を特別期間として、神社関係者が中心となって二万人の参宮を計画している。神宮でも記念式典や伝統芸能の記念奉納、国際シンポジウムの開催などの記念事業が予定されている。

また、今年は神社本庁の設立五十周年である。戦後五十年の「不遇」の時代を経た神社界は、今年を新たな一歩を踏み出す重要な年と捉えており、二月三日には代々木の本庁神殿で「本庁設立五十年記念祭」を斎行し、五月二十二日には日本武道館に約一万人が集う盛大な記念式典が予定されている。

その他記念事業では、神職・総代の記念表彰、特別昇級昇階、別表神社特例加列、五十年誌の刊行が行なわれる。

さらに神道の教化活動にも力を注ぎ、神道の紹介ビデオの作成、神道教化の在り方など神社界への提言を募る懸賞論文の募集、戦後五十年間に出された貴重な神道研究論文を集成した『戦後神道研究集成』の刊行が予定されている。

各都道府県神社庁も同じく設立五十周年を迎え、それぞれ記念事業を計画している。

神社本庁は時局対策として「元号表記の普及を図る」「皇室敬慕の伝統を護るため、正しい敬語を使用するよう各方面に働きかける」「自主憲法制定の世論を喚起する」「靖国神社公式参拝の定着化を目指す」「日本の教育正常化の運動を展開する」などを骨子とした運動を展開中であり、今年もこれらの運動を進めていく。

宗教法人法の「改正問題」については、現行法の宗教団体の定義では神社は宗教団体とすることに無理があるとして、抜本的改正が必要であるとの立場をとっている。

また神社界では、三陸はるか沖地震や兵庫県南部地震など、被災した神社に対し復旧の支援体制を継続することで一致しており、平成五年の伊勢の神宮式年遷宮で生じた古材を使用して、各地の被災神社が社殿や鳥居の復旧を実現している。さらに災害への対策として、本庁は災害慰藉基金の積み立てを行ない、危機に対応していく方針。